

なり、人の言語を真似るもあり、若鳥は真似ず、

小あふむ

餌がい

キビ、米、
ミリ、はくじ、

大きな緋をんに少し大ぶりにて、丸みあり、諸事あふむに替りなし、頭をばたんだのごとく立る、形總體替事なし、此外にもいんこは大小、毛いろいろの摸様のかわり有は多しといへども、先たいがい有所なり、猶類違のところ品定がたし、

〔飼鳥必用〕中 鸚鵡

此鳥形半鶏の程、總羽白し、喙足黒シ、蓮雀の立たる時は、羽の内黄色にて、能くくもの真似する也、こへ大きくして耳に當る也、餌飼は粳米の類飼之也、

ハタン

此鳥はハタン國の鸚鵡にて形大方也、總羽櫻色也、蓮雀立たる時は、羽の裏薄丹色見ゆる、喙足黒し、鳴こへ大きく、就中もの真似能くいたし、別而身強く長命の鳥也、都而音呼こゝろの類、己の毛をぬく病ひ出ル也、工夫ありて直すべし、總而音呼に夜鳥にて夜分餌を喰もの也、總體音呼鸚鵡の類、刺子薩州芋を焼て飼之也、西瓜の種別而好物也、但シ西瓜の種を詰て飼ば、鼻血いづるもの也、

鸚鵡渡來

〔日本書紀二十五〕大化三年十二月、是歲略○中 新羅遣上臣大阿滄、金春秋等、送博士小德、高向黑麻呂、

小山、中臣連押熊、來獻孔雀一隻、鸚鵡一隻、

〔日本書紀二十六〕二年九月、西海使佐伯連栲繩關位、小山下難波吉士國勝等、自百濟還、獻鸚鵡一隻、

〔日本書紀二十九〕十四年五月辛未、高向朝臣麻呂、都努朝臣牛飼等、至自新羅略○中 新羅王獻物略○中

鸚鵡二隻、鵠二隻、及種々寶物、

〔續日本紀十武〕天平四年五月壬子、新羅使金長孫等四十人入京、庚申、金長孫拜朝、進種々財物、并

鸚鵡一口、○中 騾二頭、
略